

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 9
主査名	藤原章正・広島大学大学院国際研究協力科 教授
研究テーマ	地方での都市集約化過程における人口と都市施設分布の相互作用に関する研究
研究の目的: 本研究では、都市構造の集約化の過程で重要になる「人口と都市施設分布の相互作用」に焦点をあて、都市計画マスタープランに集約型都市構造の実現を挙げている広島市を対象に、以下に挙げる3つの研究テーマを通して、郊外部における人口減少と都市施設撤退の影響の相互作用の解明を目指す。 (1)施設分布変化⇒人口変化の定量的把握 (2)人口変化⇒施設分布変化の定量的把握 (3)移住－施設撤退の動学的相互作用の解明に向けた基礎分析	
研究の経過(4月～9月): 第1回 5月12日 藤原章正主査、メンバーの瀬谷創氏より、課題の内容に関する説明が行われ、方向性や進め方に関する議論が行われた。また、メンバーの力石真氏より、「発展段階の異なるニュータウンにおける交通シェアリングの実現可能性(平成26年度研究プロジェクト研究成果報告)」に関する発表が行われ、その後参加者で討議した。 第2回 9月4日 関連する先駆的研究を行っている、関口達也氏(中央大学)より、「食料品店の閉店予測と閉店に伴う商業環境の変化を評価する方法」、貞広幸雄氏(東京大学)より、「バス路線図の自動作成」及び「距離変数間の多重共線性問題への対処方法」に関するご講演をいただき、参加者で議論を行った。	
下期へ向けて(課題等): 第3回 12月4日 関連する先駆的研究を行っている、谷口守氏(筑波大学)より、ご講演をいただくとともに、メンバーより課題の進捗説明が行われることを予定している。研究に関する進捗と今後の具体的なスケジュールは以下の通りである。 (1) 現在、ガソリンスタンドやスーパー撤退に関するデータを整備している段階であり、その後実際に500mメッシュ程度の解像度で、ガソリンスタンドやスーパーの撤退が、人口変化に与えた影響に関する実態把握を行う。 (2) 人口減少が都市施設撤退に与える影響を分析し、それに起因した居住者のアクセシビリティの変化を定量的に把握する。現在までに、小地域におけるコーホート法による人口予測手法に関するレビューを行った。また、ガソリンスタンドの施設レベルでの撤退を分析しうるデータを整備した。下期はこれらをもとに、具体的な検証作業を行っていく。 (3) 進化ゲーム理論や、Social network 理論に基づき、移住と施設撤退の相互作用を記述する動学モデルについて理論的検討を行う。現在は、モデル化のための関連理論のレビューをすすめている段階である。	
研究メンバー(敬称略): 藤原章正(主査・広島大学) 渡邊一成(福山市立大学) 楠橋康広(西日本高速道路エンジニアリング) 森山昌幸(バイタルリード) 周藤浩司(中電技術コンサルタント) 張峻屹(広島大学) 塚井誠人(広島大学) 伊藤雅(広島工業大学) 宮崎耕輔(香川高等専門学校) 神田佑亮(京都大学) 布施正暁(広島大学) 嶋本寛(宮崎大学) 桑野将司(鳥取大学) 力石真(広島大学) 瀬谷創(広島大学) 吉野大介(復建調査設計) 倉橋一将(広島大学) 西川文人(広島大学) 丸田雅晴(広島大学)	